

子供たちからの便り

・・・その中で一番心にのこったことは、あそさんがなかったら、白川もないし、上井手もなかったことです。わくわくランドに行かなかったら白川や上井手のこと知りませんでした。・・・  
(大津小3年)

・・・私は毎日水のお世話になっていると気づいていませんでした。水があるのをあたり前と思っていました。果物の中にもたくさんの水があって、食べ物みんなのお世話になっているのだと思いました。・・・  
(菊水西小3年)



7月・白川小5年  
総合的な学習「水生生物調査」



11月・立野小5・6年  
総合的な学習「白川」



11月・合志南小5年  
理科「流れる水の働き」

総合的な学習の時間に水環境の学習を、理科の時間に「流れる水の働き」の学習を、図工科でストーンペインティングを、社会科で地域のために来てくれました。

わくわくランドを学ぶ子供たち

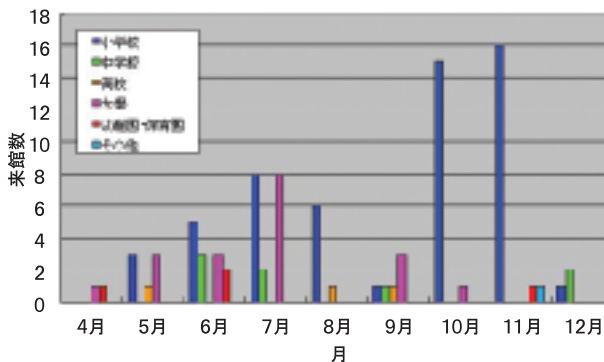
白川わくわくランド  
ニュース

第32号

発行  
●白川流域住民交流センター  
(白川わくわくランド)  
〒860-0854  
熊本市東子飼町8-55  
TEL (096) 346-5454  
FAX (096) 346-5411  
ホームページアドレス  
<http://www.wakuwaku-land.com>  
メールアドレス  
[wakuwaku@wakuwaku-land.com](mailto:wakuwaku@wakuwaku-land.com)

来館学校・園の月別数 (4月～12月)

小学校55校(2402名)・中学校7校(321名)・高校3校(17名)・  
大学19校(131名)・幼・保育園4園(183名)・その他1(10名)(全て延べ数)



白川の橋(28)

弓削大橋

河口から数えて28番目の橋。国道57号に架かり、右岸側の龍田町弓削と左岸側の中江町を結ぶ。橋長420mで、架設施工年は、上りが1987年、下りが1972年である。



弓削大橋下流、吉原橋からみる



白川下流、左岸からみた弓削大橋



問い合わせ先：白川わくわくランド(096)346-5454

白川双六  
できまじた!  
流域の自然・歴史・建築物  
など読み込んで...



# 白川わくわくランド 寺子屋

## 秋の立田山を歩こう

### ～自然の恵みを探そう～

**日時** 平成十九年十一月十日(土曜日)  
**九時半～十四時**

**参加者** 十五名

秋晴れに恵まれた晩秋の一日、白川の流域になる立田山の南斜面の一部を歩きました。晩秋とはいえまだまだ今年は秋真っ盛り。掬いとるほどに落ちていくドングリ類やまつぼっくりを拾ったり、赤く熟し鈴なりになった野生の柿を見上げて歓声をあげたり、椎の実やオニグルミをかじってかすかな甘みを味わったり、マテバシイを黙々と拾ったり…。

あちこちに張ったクモの巣や林の中のかかふかの土、小動物の糞なども子供たちにはいい観察材料です。

秋の立田山は、自然の恵みでいっぱいでした。集めたドングリやまつぼっくりなどを材料に、十二月の白川わくわくランド寺子屋ではクリスマスツリーや新春用竹箆作り、また、思い思いにクラフト作りに挑戦したいと思います。

今回は、九州東海大学の学生で組織している「白川エコロジカル・ネットワーク」と一緒に活動しました。自然と向き合う若い力に期待しています。

独立行政法人森林総合研究所九州支所の正門から支所に向かっての並木「メタセコイア」。一度は地球上から消えたと思われたメタセコイアだが、現生種が1945年に中国四川省で発見され、挿し木や種子で広まったそうだ。



スギ科の落葉高木で、すでに紅葉が始まっていた。

森林総合研究所の敷地内にある「森の展示室」内。森の動物のはく製やきのこ類、各種木材などが展示されている。子どもたちは、早速、展示された生き物のスケッチを始めた。



小峰墓地の周辺。真っ赤に色付いたアメリカハナミズキの街路樹を眺めながら。



いい天气に恵まれ白川わくわくランドを出発。



研究所の敷地を抜けるとクヌギやカシの林。時には音をたててドングリが落ちてきてびっくり。大人も子供も無我夢中でドングリやオニグルミを拾ったり、クモの観察をしたり…。



たわわに実ったカキと地面を覆うほどのドングリ



立田山配水池。健軍水源池から水をあげ、清水・黒髪方面等に水を配る。



豊国台公園に到着。ここでおにぎり弁当。ここは、豊国廟跡で現在公園化されている。豊国廟は、1599年、加藤清正によって建立されたが江戸時代になって撤去された。金箔の瓦に太陽が反射し、白川の魚も逃げたという言い伝えがある。

白川わくわくランド寺子屋

「クリスマス・新春クラフト」  
まつぼっくりのツリーと  
お正月の竹箸作り

日時 平成十九年十二月八日(土) 十三時～十六時  
講師 木村 茂 氏  
場所 九州東海大学白川エコロジカル・ネットワークのメンバー  
参加者 白川わくわくランド  
二十五名

十一月十日に行いました白川わくわくランド寺子屋「秋の立田山を歩こう」で拾ってきたまつぼっくり・ドングリなどや立田山の孟宗竹(所有者から分けてもらったもの)を使って、クリスマス・新春クラフト作りを行いました。親子連れや家族連れまた子供たちだけと、参加者は、小学校一年生から六十歳代の方まで様々でしたが、だれもが熱中した三時間でした。竹箸作りでは、小学校三年生の子供たちが、小刀を使って竹削りに挑戦しました。講師から小刀の安全な使い方を取って教えてもらいました。あとは、夢中になって削りました。ただ、あまりに夢中になりすぎて、ちよつと細くなりすぎ「竹串」に変身したのも。何はともあれ、正月用のお箸と箸置きを怪我もせずに作り上げました。

子供たちがあまり小刀を使わなくなった近年、小刀という道具で「削る」という作業を行ったことは、いい経験になったと思います。これがきっかけで、子供たちが「ものづくり」に興味を持ってくれたらいいなあという思いに駆られます。

クリスマスツリーや来年の干支「ねずみ」の置物づくりでは、まつぼっくりやドングリを使って思い思いの作品を作り上げました。子供たちの発想は豊かで、ドングリを使ったサンタクロースやロボットまで様々でした。



竹をなたで割る作業から竹箸作り挑戦した参加者。竹を割る・削る・サンドペーパーをかけるという一連の作業を体験しました。

思い思いにまつぼっくりに色を塗ったり飾りをつけたり…。ドングリからはネズミやトトロなどが生まれました。



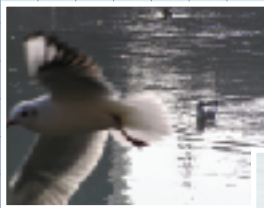
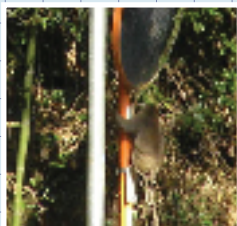
作成した新春用箸。一番上は栗箸(やりくり上手を願って)、下は竹箸、箸置きも竹。



作品



まつぼっくりやドングリ、ドングリの殻斗(ぼうし)などを使ってクリスマスツリーや来年の干支のネズミなどを作成。



白川わくわくランド前の白川でカモメ(左)とヒドリガモ(下)



冬の白川及びその周辺「ツル」

12月末、大津町の上井手堰から上井手に沿って歩いていたら、カーブミラーに自分の姿を映している(?)やんちゃな(?)サルや陽だまりに咲くヤブツバキを発見!